



30期（昭和54年3月卒業）

- 監督 松野 守康
(※監督に関しては、夏季岐阜県大会時を表記しております。)
- マネージャー 堀 ゆい子、藤波 恵美子
- 選手数 12人

氏名	出身中学
足立 勝司	長森
國島 周志	本荘
神山 浩幸	岐大附属
佐伯 健	明郷
杉山 忠国	岐大附属
高井 尚登	岩野田

氏名	出身中学
寺田 悦朗	岐南
野田 英一	伊奈波
野々村 邦人	岐北
三輪 一弘	加納
八代 雅幸	加納
横幕 聖典	島

■第30回 秋季岐阜県高等学校野球大会

1回戦 不戦勝
 2回戦 ● 長良 1 - 2 大垣商

■第25回 春季岐阜県高等学校野球大会

1回戦 不戦勝
 2回戦 ○ 長良 8 - 0 土岐商
 準々決勝 ○ 長良 6 - 0 大垣工
 準決勝 ● 長良 0 - 5 多治見工

■第60回 全国高等学校野球選手権岐阜大会

1回戦 不戦勝
 2回戦 ○ 長良 7 - 0 武義
 3回戦 ○ 長良 7 - 1 市岐商
 準々決勝 ○ 長良 1 - 0 多治見工
 準決勝 ○ 長良 3 - 0 岐西工
 決勝 ● 長良 0 - 1 県岐商

■現役当時の様子や概況など

「甲子園キップは長良か？ 県岐商か？」7年ぶりの決勝進出を果たしたのが、この年のチームである。

春の地区リーグ戦より、監督に鈴木賢治氏(26期・当時岐大4年)、コーチに松野守康氏(27期・当時名城大3年)が就任し、これより長良高OB学生監督の時代が始まった。両氏による理に適った熱心な指導は、福井商(センバツ準優勝)・亨栄・刈谷(センバツ愛知代表)等との練習試合やミーティング等により選手に浸透し、チームは夏の県予選へと着実に力をつけていくのである。

そして夏の県予選は、松野守康氏が監督に就任した。この年のチームは、本格派投手杉山を軸としてセンターライン(捕手高井―遊撃手野田―2塁手野々村―中堅手三輪)の安定した守りを中心としたチームで、夏の県予選でも決勝までの5試合で、失点2・失策1という記録を残す。

打撃面でも豪快さはなかったものの、チーム打率は3割を超え、特に野々村・野田・高井・2年生で3番の吉川は、4割を超える記録を残し、国島も攻守に確実なプレーを見せるなど、バランスのとれたチームであった。

しかし練習試合などでは、明らかに実力差のあると思われる学校に、コロッと負けたりするという、穴も持ち合わせていた。夏の県予選では、2つの印象深い試合がある。1つは、OB後藤茂伸監督率いる、春の県大会優勝校、剛腕佐々木・剛打の多治見工との対戦である。春には準決勝で5対0で敗れていたため、夏、4回の1点を守りきっての完封勝ちの雪辱は感激であった。またOB監督同士の対決として話題を呼んだ。

もう1つは、決勝の県岐商戦である。長良3安打・県岐商4安打、試合時間1時間10分、心地よい緊張感・リズム、大観衆・大声援、1対0、悔しさと爽やかさ、もっとやっていたい、伝統の重さ、1点の価値…、甲子園の道は、まさしくあと1歩でした。